

「新型コロナワクチン」接種体験記（2）：接種編 ① 篠崎 辰夫

5月16日（日）1回目の接種を行った。75歳以上の後期高齢者からの優先接種。会場は3か所ある集中接種場所のひとつ。接種初日最初の時間帯を予約していた。予約なので、10分前くらいに行ったら、すでに大勢の人がいてびっくり。次の時間帯の30分後の人がもう待っていた。付き添いの人も多くいたようだ。

受付、医師の問診、接種、接種済み証発行、経過観察（15分）の各コースを、スタッフの誘導で場所を移動して行っていく。医師と打ち手（接種）はそれぞれ一人体制。もっと多いのかと思ったが、まだワクチンの供給量が少ないのかも知れない。それでもそんなに待たずにスムーズに流れ30分程で終了した。経過観察も、見た限り全員が15分経過後何事もなく退席していった。その後の副反応も、接種した部分を触れるとちょっと痛みを感じる程度で、発熱や腫れ、倦怠感などもなかった。

接種初日で相手が高齢者のこともあってか、多くのスタッフが丁寧に対応しており、特に混乱もなくすスムーズに流れていた。ただ、これだと数がなかなかこなせず、全体の接種完了までにはかなり時間がかかるだろうと感じた。

ごく単純素朴な疑問だが、現在「問診」と「接種」が分けられているが、なぜ医師が問診のあとその場ですぐ接種しないのだろうか。そうすれば、現在問題になっている「打ち手不足」が多少なりとも解消されるだろう。ようやくワクチンの供給が潤沢になってきたというのに、打ち手が不足しているなんてお粗末でもったいない。いろいろ難しいルールや問題があるのかも知れないが、有事なので法の枠をこえてでも柔軟な対応が必要と思う。問診に時間のかかる人がいるとすれば、あらかじめ予診票で選別してコースを分けるなど、いろいろ工夫の余地がありそうだ。

次の2回目の接種は、3週間後の同じ曜日、同じ時間帯（6月6日）に指定された。当初ワクチン予約サイト上の説明では、1回目の接種後からおおむね1週間後に再度予約サイトにログインして2回目の予約をするようにと記載してあったが、その後修正されていた。

このように、無事1回目の接種が完了し、2回目の予約ももらった。これで一步前進、出口がようやく開けてきたような気がする。

今日の新聞の読者投稿欄に、こんな投稿が掲載されていた。

「予約」・・・「ようやく」と読むんだな ————— 高齢者

(2021/05/16)